

関節窩骨欠損を有する反復性肩関節脱臼に対する関節窩人工骨移植術の工夫と成績評価

2002年4月1日から2022年12月31日までに反復性肩関節脱臼に対して手術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「関節窩骨欠損を有する反復性肩関節脱臼に対する関節窩人工骨移植術の工夫と成績評価」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2002年4月1日から2022年12月31日までに日本医科大学付属病院整形外科・リウマチ外科にて、反復性肩関節脱臼に対して鏡視下Bankart修復術を受けた患者さんの術前後の画像や臨床所見を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：関節窩骨欠損を有する反復性肩関節脱臼に対する関節窩人工骨移植術の工夫と成績評価

研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 整形外科・リウマチ外科 准教授 飯澤典茂

(2) 研究の意義、目的について

反復性肩関節脱臼に対する鏡視下Bankart修復術の術後成績は良好ですが、関節窩骨欠損や競技者同士の接触や衝突が生じるスポーツ（コンタクト・コリジョンスポーツ）は術後再脱臼の危険因子とされています。関節窩骨欠損に対する治療法として、烏口突起移行や関節窩骨移植が一般的に行われています。烏口突起移行術は良好な成績が報告されていますが、変形性関節症や骨癒合不全・骨吸収などの問題点も報告され、なおかつ非解剖学的治療です。一方関節窩骨移植も良好な成績が報告されていますが、我が国では自家骨移植が一般的であり、自家組織は犠牲になってしまいます。

われわれは関節窩骨欠損例に対して、鏡視下Bankart修復術に、骨性再建として自家組織を犠牲にしない関節鏡下人工骨移植術を併用しています。

術後成績は非常に良好ですが、技術的に難しいため、普及には至っていません。また関節窩骨欠損量もどの程度から骨補填が必要かも明確ではありません。

術後再脱臼などの成績不良因子を再検討するとともに、関節窩骨欠損を伴う症例における関節鏡下人工骨移植術の術後成績を検討し、より簡便な術式の開発や形状変更を行うことを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2002年4月1日から2022年12月31日までに反復性肩関節脱臼症例に対して鏡視下Bankart修復術を行った170症例の診療録、画像を調査します。この中には関節窩骨欠損例や関節窩骨欠損例に対して関節鏡下人工骨移植術を行った症例も含まれます。調査項目は診療録より患者背景や術前・術後理学所見（関節可動域、動揺性、筋力など）、術後経過、手術記録など、また術前後の各種画像記録（単純X線像、CT像、MRI像など）を調査、測定します。これら各理学所見や術後経過、画像上の変化などを分析し、各要素との関連について検定を行います。

試料：なし

情報：診療録より年齢、性別、既往歴、合併障害や術前・術後理学所見、術後経過、手術記録、術前後の各種画像（単純X線像、CT像、MRI像など）での骨形態変化や癒合状況、骨・軟部反応の推移など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。



(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 整形外科・リウマチ外科 准教授 飯澤典茂

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6754

メールアドレス：n.iizawa@nms.ac.jp